

## 戦国期の城郭



肥後考古学会  
鶴嶋 俊彦

【歴史編／第4章 第3節 戦国時代の高森地域(城郭)】

中世の史料では高森町内には高森城と野尻城の二つが登場するだけですが、近世の地誌を参考にすると、村山城・丸山城・社倉城・芹口城・男原城(中原城)・岩神城の6城跡が抽出でき、今回の町史編纂では丸山城跡を除いた合計7城跡の位置・構造を確認・推定できました。ここでは高森城を紹介します。

高森城の城主は高森氏です。詳細な沿革は不明ですが、戦国時代末期に書かれた『上井覚兼日記』に「阿蘇家中高森方」「彼(高森の)宿所」「(高森の)城」「高森館」「彼(高森入道の)こと館」が見え、天正14年2月に高森入道は島津勢に討伐されています。この史料から高森入道(惟直)の宿所(=高森館)と城が実在したことがわかります。

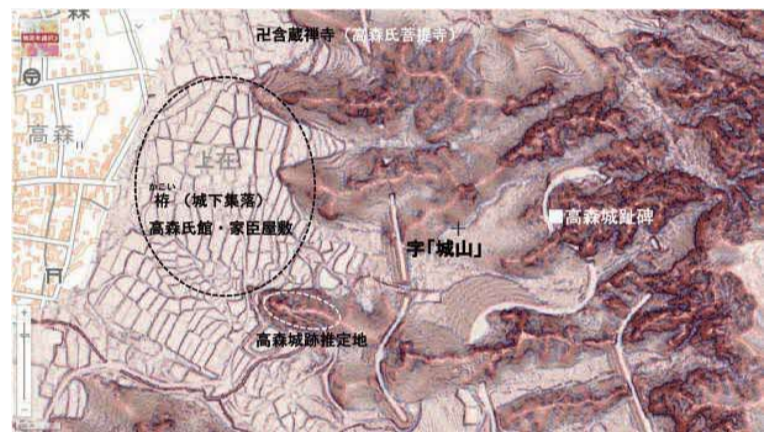
1979年刊行の旧版『高森町史』では、城跡を字城山の外輪山寄りの国道325号線が大きくカーブする現在「高森城趾」の石碑付近としますが、周辺は切り立った岩場の連続でここでの築城は不可能です。

そこで外輪山西側斜面を踏査した結果、高森町大字高森字城山の南、外輪山内壁から続く岩場尾根を西に下った標高約640m、比高50mの「高森公園」の一角、現在東屋があって高森市街地を見下ろす尾根先端に推定しました。城郭の規模は長さ120m、最大幅8mで、細長い平坦な地形には籠城時の長屋などを建築できる十分な空間が確保できます。堀切のような遺構はありませんが、北・西・南の三方は40度の急斜面で天然の要害となっています。西端の金毘羅宮の石祠がある小高い平坦地は見晴らしがよく、望楼があったかもしれません。

旧版『高森町史』では「高森城」の別称「<sup>カコイ</sup>梶城」に注目し、「カコイ」地

名が伝承されている字「城山下」(通称上在)の山麓部分に高森氏の館を想定しています。カコイは「梶」「罫」「角井」「覚井」などと表記され、県内では城跡の麓に所在し、城主居館や侍屋敷が置かれた麓集落(城下)を指す地名です。高森の場合、「史跡 愛馬龍風の墓」の場所は高森家家老の武田氏屋敷と伝わり、高森氏菩提寺の含蔵禅寺もあるように、高森氏居館や家臣屋敷が上在の扇状地や迫に存在したと想像できます。

高森城は南郷谷東端に位置し、城跡から南東に進んで旧高森峠で外輪山を越え高千穂方面に向かう幹線道(国道325号線に近いルート)や南に進んで中坂峠越えで矢部・馬見原方面に向かう幹線道、また東に進めば黒岩峠越えで野尻を経て豊後に通じることができた交通の要衝でした。



熊本県CS立体図使用

## 高森町史『歴史編』 近現代(第6章)の見どころ



熊本大学  
永青文庫研究センター  
准教授

今村 直樹

【歴史編／第5章 近世、第6章 近現代】

明治維新とは、単に江戸幕府から明治政府への政権交代にとどまる変革ではありませんでした。全国に約260も存在した熊本藩のような地方政府(藩)が消滅し、江戸時代の人びとの生き方を規定していた身分制も解体されました。近現代(第6章)の執筆にあたってとくに意識したのは、こうした明治維新という巨大な「革命」を経て、現高森町域がどう変わったのか、それを当時の住民たちはどう受け止めたのか、という問題でした。

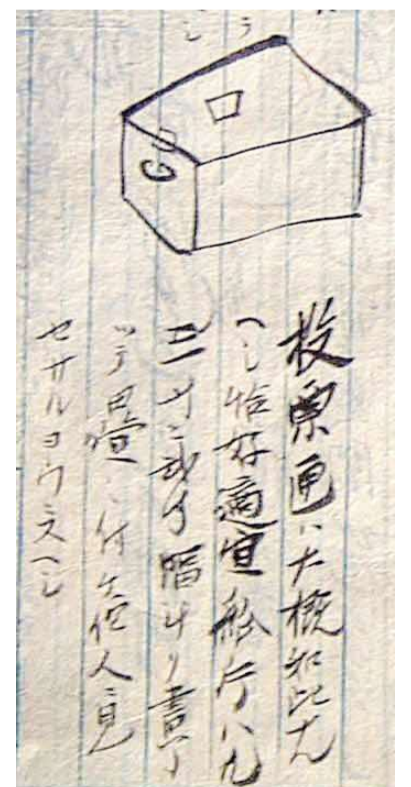
第1節「明治時代の高森地域」では、明治3年(1870)の熊本藩が全国的にも注目される大減税政策を行い、高森の住民たちもそれに歓喜したこと、しかし、廃藩置県後に明治政府から派遣された地方官が熊本県に着任すると、一転して増税策がとられ、住民たちの不満を招いたことを論じました。増税策は、他県と同様、小学校の設置や地租改正などの近代化政策を進めるためのものでした。住民たちの県政に対する不満は、日本史全体にとっても重要な二つの出来事を、熊本や高森にもたらすこととなります。

一つ目は、明治9年の熊本県臨時民会の開設です。身分制の解体を受けて、明治5年頃から各府県で地方議会が開設されます。この地方議会は、以前の身分に関係なく選ばれた議員により構成されるものでした。注目すべきは、熊本県の場合、全国に先駆けて、ほぼ男子普通選挙に基づく議員選挙が実施された点です。選挙権は、一部を除く25歳から65歳までの男性・戸主に与えられました。こうした先進的な選挙が実現された背景には、増税策に反発し、開かれた政治参加を求める住民たちの声がありました。本文263頁には、この選挙で使用された投票箱の画像(写真参照)、同じく264頁には、現高森町域の議員76名の一覧を示しています。選ばれた議員には、そ

の後の高森の地方政治をリードすることとなる人物が数多く含まれています。

二つ目は、明治10年の阿蘇一揆の発生です。増税策に不満を抱いていた阿蘇郡の住民たちは、折しも西南戦争の影響により権力の空白状態が生じたことで、熊本県や増税策に加担しているとみた役人や富裕層を非難し、集団交渉を始めます。阿蘇郡全体で8,886人が一揆に参加しました。こうした大規模な一揆は、江戸時代の熊本藩では経験しなかったものです。「役人退治万民之為」という旗が掲げられた村もありました。一方、高森村では、一揆参加者と役人・富裕層との間で、混乱状況を収めるべく前述の議員たちが奔走しました。彼らの尽力のもと、自治的かつ早期に事態が収束した点が特筆されます。

また、第2節「大正・昭和時代の高森地域」では、大正時代の白水路の建設や高森線の開通について、新史料をふまえて新たな叙述を試みました。ぜひご覧ください。



民会議員選挙で用いられた投票箱  
(「明治九年 布告編冊」小国町教育委員会所蔵)